

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472500137
法人名	社会福祉法人 はまゆう会
事業所名	グループホーム フルハウス
所在地 (電話番号)	津市香良洲町1991-1 (電話) 059-292-8545
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 8 月 3 日(金)

【情報提供票より】 (H19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,200円				

(4) 利用者の概要(7 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじおかクリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一敷地内に、母体の老人福祉施設、居宅介護サービス事業所があり総合福祉施設の一角に位置している。ホームから海岸が近く、周りは住宅や果樹園、畑が広がり、静かで自然豊かな環境である。往診が2週間に1回あり、医師との連携がよく早期医療につながっている。頻繁に外出支援がされており、鍵をかけない方針などから開放感を感じる。利用者のそれぞれの持てる力を引き出すサポートがされて、生きがいある生活を送られている。ホーム長や職員への信頼が厚く、にこやかな笑顔から安心した生活を送られているのが窺える。代表者(理事長)も地元住民の一人である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回指摘の「注意の必要な物品の保管・管理」については、一律的な管理と個人に応じた職員の注意と見守りにより、安全な生活がなされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全員で取り組むことにより、気づき、見直し改善へつなぐ共通の姿勢ができています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市町村合併で、運営推進会議のメンバーが大幅に入れ替わったため、本年度新規メンバーで開催がされた。まず、ホームのことを知ってもらう取り組みからはじめ、今後回数を重ねて会議の内容を活かした取り組みをすすめていく方針である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へ、月に1回、様子を書面にて伝え、ホームたよりを発行、行事に招くなど家族との連携を重んじている。運営推進会議への参加を呼びかけ、家族の思い、意見を聞く機会を作り、介護計画に反映させる取り組みがされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>できるだけ外出機会を多くし、いろいろな場所で地域の方とふれあう機会を作っている。地元出身の利用者がみえ、地元の方とは顔なじみで、他の利用者とともにおつきあいをしている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族とのつながり、地域とのつながり、家族と地域とのつながりを大切にしていって取り組みを理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長から月1～2回開催されている職員会議や毎日の申し送り時など、折々に理念の大切さが話され、職員も共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事への参加、公共施設(保健福祉センター・サンデルタ)へ出かけ、そこで地域の方と交流したり、散歩やホーム敷地内の畑で野菜作りをしている時など地元の方とおしゃべりをすることもあり、地域にとけこんだ生活を送っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を職員ひとり一人が理解し、職員全員が取り組み、会議で話し合われ、そこから気づき、見直し、改善へとつなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村合併で、運営推進会議のメンバーが大幅に入れ替わったため、本年度は新たなメンバーで開催がされた。レクリエーションを取り入れて利用者を理解してもらう工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体の法人を経由して、福祉教育、行政の看護師の実習を受け入れており、情報提供も積極的にしている。	○	ホーム独自での取り組みにも期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を家族へ送付時に、個別に様子を書面で知らせている。また、3ヶ月に1回、ホームたよりを発行し、家族へ通信し、同時に、預かっている金銭出納簿に領収書を添付し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項説明書で明記し、運営推進会議への出席や行事への参加を働きかけたり、家族の来訪時に家族から、思いや意見を聞いて、反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長の異動にはダメージが大きいですが、職員が代わってもその人が自分の生活を支えてくれる存在であるということと、自分なりに生活しているとの意識があつてか、異動があつても特に混乱はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学ぶことには積極的に推進しており、施設内外の研修には随時参加している。また、個人的に資格等取得を目指し、勉強に励む職員もあり、ホーム長がスーパーバイザーとしてサポートされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入しており、意見交換会等に参加し、交流をしている。今後、合同で運動会をやりたいことなどが話し合われている。各事業所ともに情報交換の必要性を強く認識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		入居前は独居の方が多く、納得しての入居の場合が多い。中には姉妹で入居している方もある。馴染めない方には、おためし体験入居をしてゆっくり馴染んでもらい、入居に導いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		利用者の日々の様子や会話から、本人が出来る「力」を發揮してもらえ場面を出来るだけ作り、引き出す支援がされて、ともに暮らしている意識をもつようになっている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		帰宅への思いはそれぞれにあり、願望の代替として「ふるさと巡り」を実施している。それぞれの会話や行動から把握し、実現可能なことを介護に活かしていく姿勢である。
1. 理念と共有					
		36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		月に1回カンファレンスをかねた会議が開催され、利用者、家族の意向をふまえ、討議がされ、担当の職員がまとめて介護計画が作成される。
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		変化がない場合は、6ヶ月に1回の見直しがされるが、詳細な日々の記録、職員の気づき、会議などから随時見直しがされている。介護計画には、家族の同意も得ている。今後、モニタリングを月1回程度実施していきたい旨の意向がみられる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特養の看護師、協力医療機関の医師の協力、連携のもと昨年ターミナルの方の最期をホームで看取られた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師の往診が、2週間に1回ある。診断により、大きな病院へ紹介をしてもらうこともあり早期に対応ができています。また、皮膚科、眼科、歯科等希望に応じて往診可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの事例が1例あり、今後ともケースに応じた対応をする方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を大切に、言葉がけには注意が払われている。また、書類の記録は事務所内で行い、書類の事務所外への持ち出しを禁じている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おしゃれ着は利用者が自分の物を自分で手洗いをする、自分の物は自分で片付けるなど、利用者が自ら生活をする利用者本位の暮らしを支えるサポートをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が職員のサポートで、台所に立って調理し、お皿へ盛り付け、配膳をして食事の準備がされている。3つのテーブルに分かれて、楽しく会話しながらの調査日の昼食風景であった。副食の付け合わせの青ジソや冷やっこの葉味ねぎは利用者が家庭菜園で作って収穫したものである。また月1回の外食が楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後3時すぎに行われる。広い浴室で気の合う者同士で入ることも多い。また、隔週日曜日には、夜6時半～8時の時間帯での入浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	脳梗塞の後遺症で右手に障害のある利用者が、ホーム長の励ましで、毎日日記をつけ、再び上手な字が書けるようになり、日々の生きがいとして日記をつけられている。花の水遣りやテーブルへお花を飾るなど、それぞれに役割がある。誕生日会やクリスマス会には、職員からプレゼントをもらったり、季節折々には催しを楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社へ参拝を兼ねて散歩にでかけたり、買い物や公園へでかけるなど外出支援が頻繁にされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけられておらず、開放的なホームである。外へ出て行く人に、他の利用者が声をかけたり、職員が見守るサポートがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での、防災、避難訓練(応急手当を含む)が春、秋の年2回実施され、参加している。ホーム独自で利用者へ時間を知らせずに(日にちは知らせる)避難訓練等を行っている。	○	周辺住民と一緒に参加する、訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特養の厨房で作られた食事とホームで作る食事が併用されている。栄養士による献立でバランスには配慮ができています。水分補給には、十分注意がはらわれている。	○	元気な利用者が多く、食欲旺盛であるが、量の目配りを望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
ら					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには壁に絵画が飾られたり、テーブルにお花が生けてあるなど温かみがある。リビングは、畳のコーナーがあり、テレビの前にはゆったりしたソファが置かれ、そこにも畳が敷かれくつろぎやすいよう配慮がされている。窓が開け放たれ、涼やかな風がはいつてきて、気になる臭いは感じない。掃除も行き届き明るい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、エアコンはホームの備品であるが、それ以外は自前の物が持ち込まれている。テレビや箆筒、小さなテーブルセット、仏壇など思い思いの物が置かれ、自分のお部屋らしく飾られている。居室拝見する折は、自分の部屋を見てほしいと利用者自らが案内して下さった。		